

第59回 日本小児内分泌学会学術集会
ランチョン教育セミナー1（LS1）

日 時 **2026年11月5日（木）11：55～12：45（50分）**

会 場 **第1会場（北九州メッセ 1階 B展示場）**
〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目8-1

座 長 **堀川 玲子 先生**
（サンマルコクリニック）

『ソグルーヤ®のSGA性低身長症への適応拡大を契機に成長ホルモン治療を再考する』

演 者 **大幡 泰久 先生**
（大阪大学大学院医学系研究科小児科学）

参加方法
ランチョン教育セミナーはへのご参加には本学術集会への参加登録および事前申し込みが必要です。
詳しくは学会ホームページをご参照ください。

https://orbit-cs.net/jspe59/

共催：第59回 日本小児内分泌学会学術集会
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

第59回 日本小児内分泌学会学術集会
ランチョン教育セミナー1（LS1）

『ソグルーヤ®のSGA性低身長症への適応拡大を契機に成長ホルモン治療を再考する』

大幡 泰久 先生
（大阪大学大学院医学系研究科小児科学）

成長ホルモン（GH）製剤は、従来の連日皮下注射製剤に加え、週1回投与の長時間作用型製剤（LAGH）を臨床で選択できる時代を迎えた。LAGHの一つであるソグルーヤ®は骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症と成人成長ホルモン分泌不全症（重症に限る）に対して承認され利用されているが、SGA性低身長症を対象としたREAL5およびREAL8試験の結果を踏まえ、2026年6月に骨端線閉鎖を伴わないSGA性低身長症への適応拡大が承認された。これにより、長期にわたり連日注射を要してきたSGA性低身長症のGH治療に、週1回投与という新たな選択肢が加わった。今回の適応拡大を受けて、今後SGA性低身長症のGH治療は変わってくる可能性がある。一方、SGA性低身長症はGH–IGF-I軸異常、インプリンティング異常、骨系統疾患、DNA修復異常などを含む不均一な集団であり、治療開始前の鑑別診断が重要である。そこで本セミナーではSGA性低身長症の病態と従来の連日GH治療成績を確認し、ソグルーヤ®の有効性・安全性を整理したうえで、これからのソグルーヤ®を含めたSGA性低身長症に対するGH治療を再考する。

共催：第59回 日本小児内分泌学会学術集会
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

JP26SOM00148　2026年9月作成